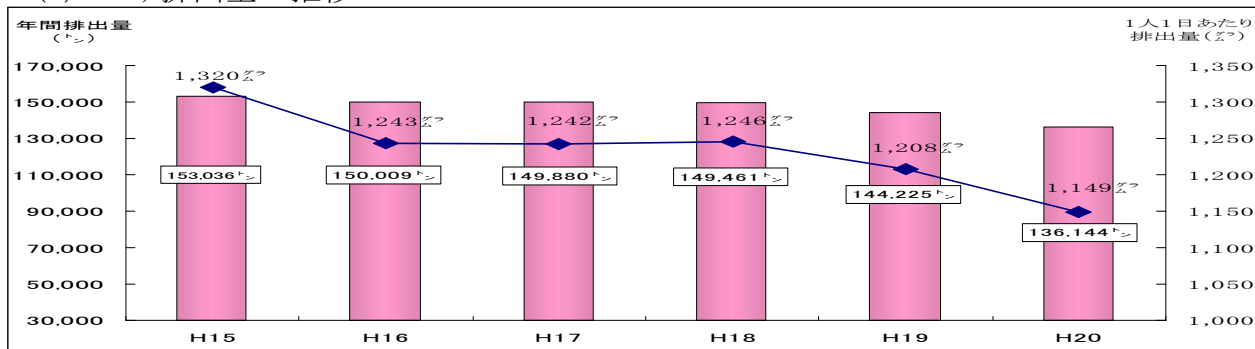


ごみ処理の現状と課題について

1 ごみ排出量の現状

(1) ごみ排出量の推移



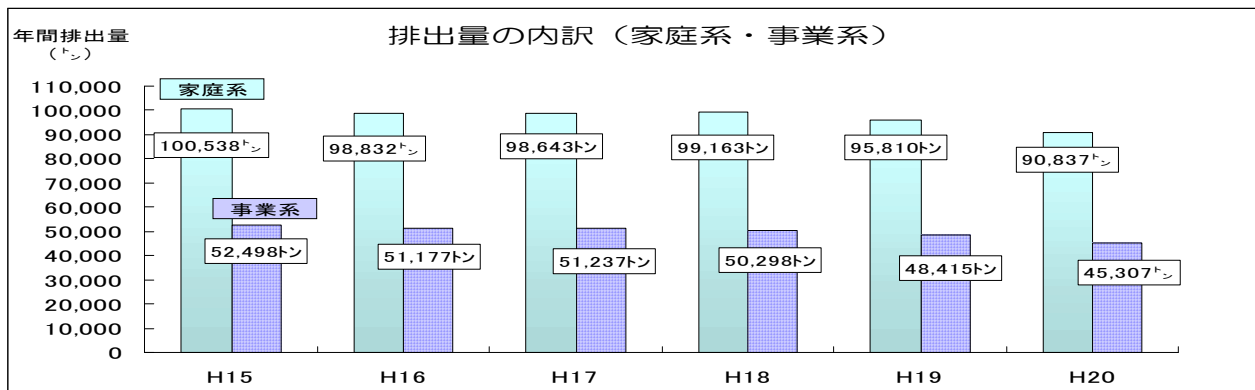
(2) ごみ排出量の内訳

年 度	家庭ごみ(t)	粗大ごみ(t)	資源化物(t)	その他(t)	計(t)
15年度	126,097 (3.6%)	3,855 (19.9%)	21,935 (0.1%)	1,149	153,036 (3.0%)
16年度	122,888 (-2.5%)	3,860 (0.1%)	22,416 (2.2%)	845	150,009 (2.0%)
17年度	122,896 (0.0%)	3,854 (-0.2%)	22,353 (-0.3%)	777	149,880 (-0.1%)
18年度	122,783 (-0.1%)	3,499 (-9.2%)	22,336 (-0.1%)	843	149,461 (-0.3%)
19年度	118,729 (-3.3%)	3,385 (-3.3%)	21,454 (-3.9%)	657	144,225 (-3.5%)
20年度	113,339 (-4.5%)	2,682 (-20.8%)	19,579 (-8.8%)	544	136,144 (-5.6%)

※その他は、不法投棄等

() は前年度比

(3) 家庭系・事業系別排出量



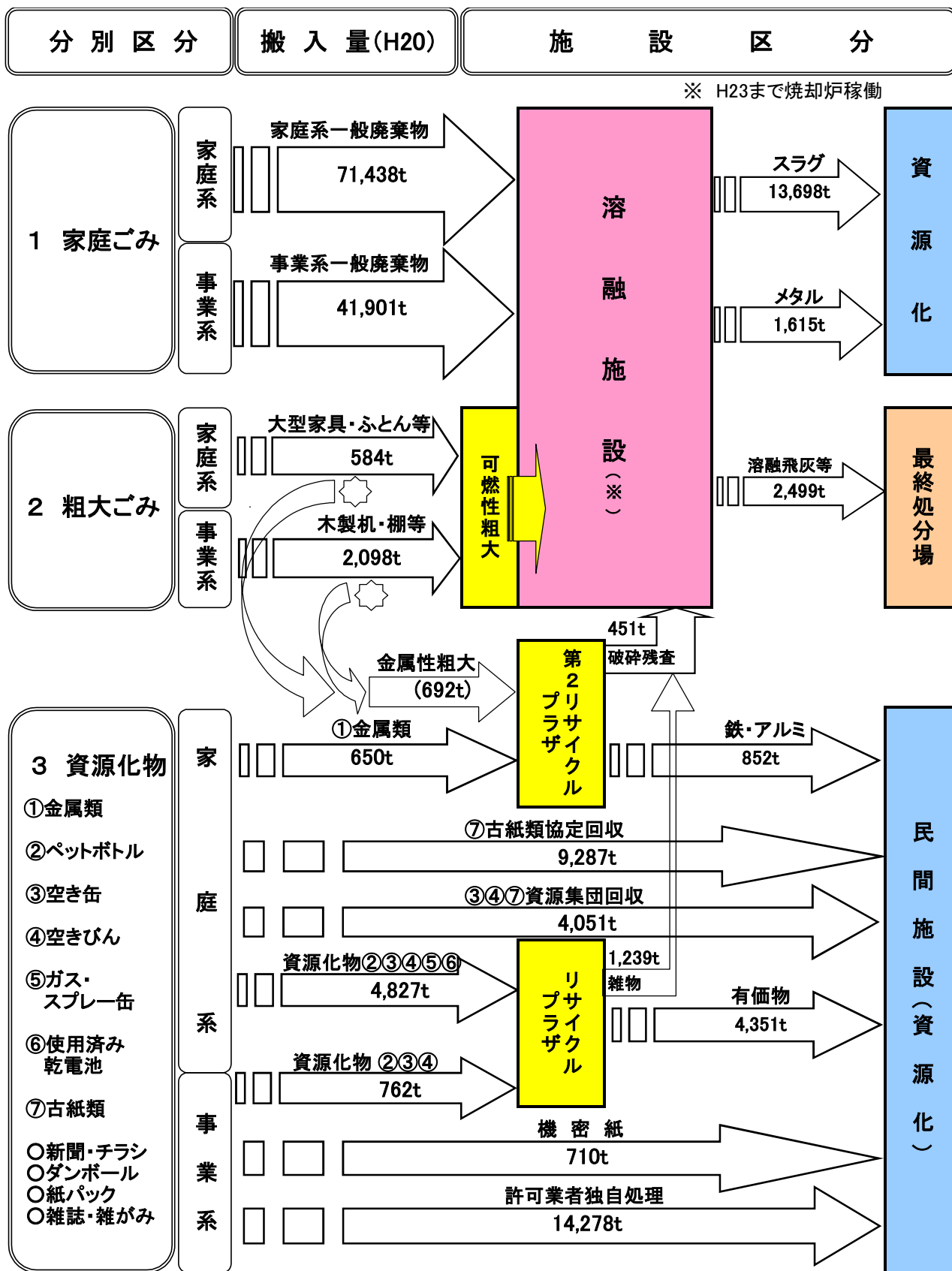
(4) 家庭系・事業系別排出量の内訳 (家庭系ごみ)

年 度	家庭ごみ(t)	粗大ごみ(t)	資源化物(t)	計(t)
15年度	79,216 (5.6%)	1,028 (26.4%)	20,294 (0.2%)	100,538 (4.6%)
16年度	77,079 (-2.7%)	1,087 (5.7%)	20,666 (1.8%)	98,832 (-1.7%)
17年度	77,025 (0.1%)	793 (-27.0%)	20,825 (0.8%)	98,643 (-0.2%)
18年度	77,227 (0.3%)	807 (1.8%)	21,129 (1.5%)	99,163 (0.5%)
19年度	74,578 (-3.4%)	672 (-16.7%)	20,560 (-2.7%)	95,810 (-3.4%)
20年度	71,438 (-4.2%)	584 (-13.1%)	18,815 (-8.5%)	90,837 (-5.2%)

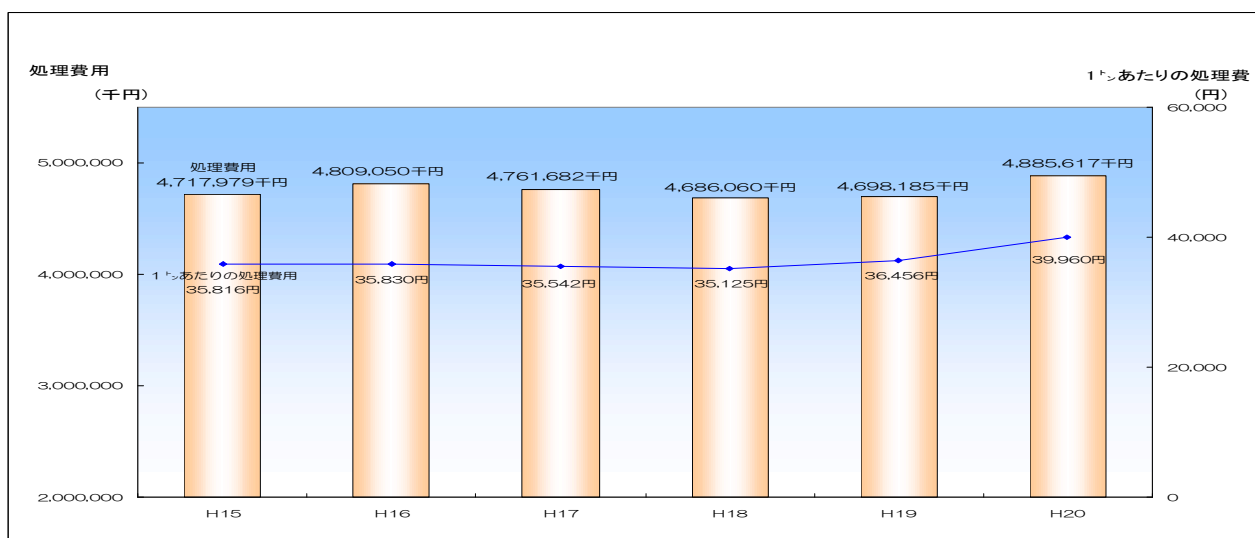
(事業系ごみ)

事業系ごみ(t)
52,498 (0.0%)
51,177 (-2.5%)
51,237 (0.1%)
50,298 (-1.8%)
48,415 (-3.7%)
45,307 (-6.4%)

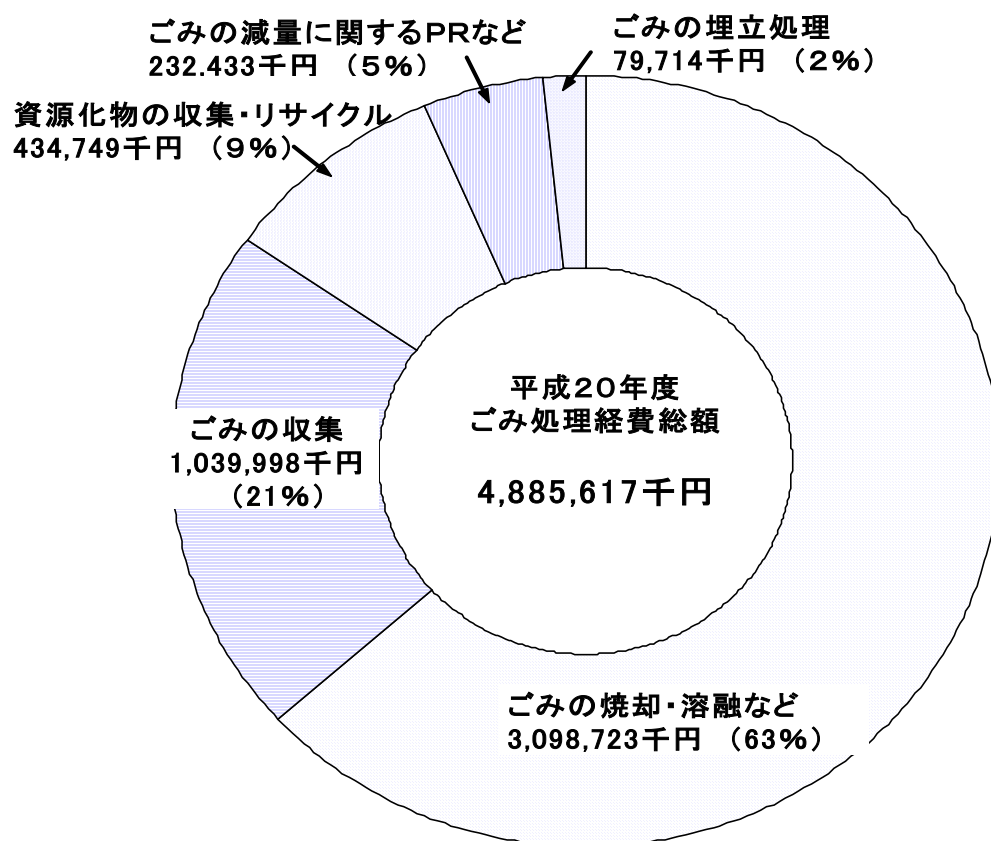
() は前年度比



(6) ごみ処理経費



(7) 平成20年度ごみ処理経費内訳



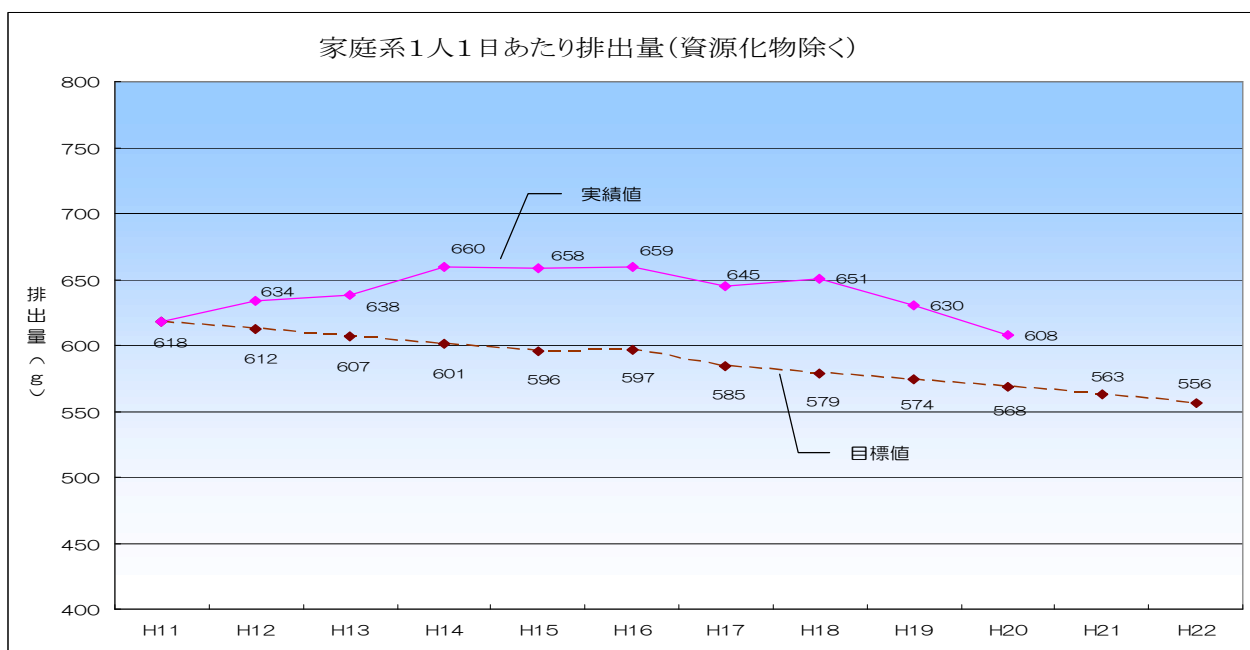
2 秋田市一般廃棄物処理基本計画で掲げる目標と実績

数 値 目 標／平成22年度末までの目標

- ① 市民1人1日あたりの家庭系ごみ（資源化物を除く。）の排出量を平成11年度の618gから10%以上削減する。
- ② 事業系ごみ（資源化物を除く。）の排出量を平成11年度の49,138tから15%以上削減する。
- ③ リサイクル率を平成11年度の23.6%から38%以上に引き上げる。
- ④ 最終処分量（埋立量）を、平成11年度の20,798tから90%以上削減する。

区 分		H11 年 度 実 績	H22 年 度 目 標 値
減 量	市民1人1日あたりの排出量	618 g	556 g
	事業系処理ごみの排出量	49,138 t	41,767 t
リサイクル率		23.6%	38.0%
最終処分量		20,798 t	2,079 t

(1) 家庭系ごみ排出量



参考) 県内市町村および中核市との家庭系ごみ1人1日あたりの排出量比較

○平成18年度県内市町村排出量

市町村名	排出量(g)	有料化実施状況
男鹿市	1,047	—
大潟村	884	H7年4月
秋田市	822	—
にかほ市	813	—
小坂町	777	—
由利本荘市	764	H19年10月
能代市	756	H13年10月
大館市	751	—
上小阿仁村	751	—
鹿角市	730	—
北秋田市	727	—
大仙市	724	H20年4月
湯沢市	704	H17年3月
八峰町	696	H15年4月
美郷町	693	H21年4月
三種町	679	H9年11月
藤里町	674	H12年4月
潟上市	671	H17年3月
横手市	666	H19年4月
羽後町	661	H6年1月
八郎潟町	655	H7年4月
仙北市	638	—
井川町	629	—
東成瀬村	618	—
五城目町	547	S45年6月

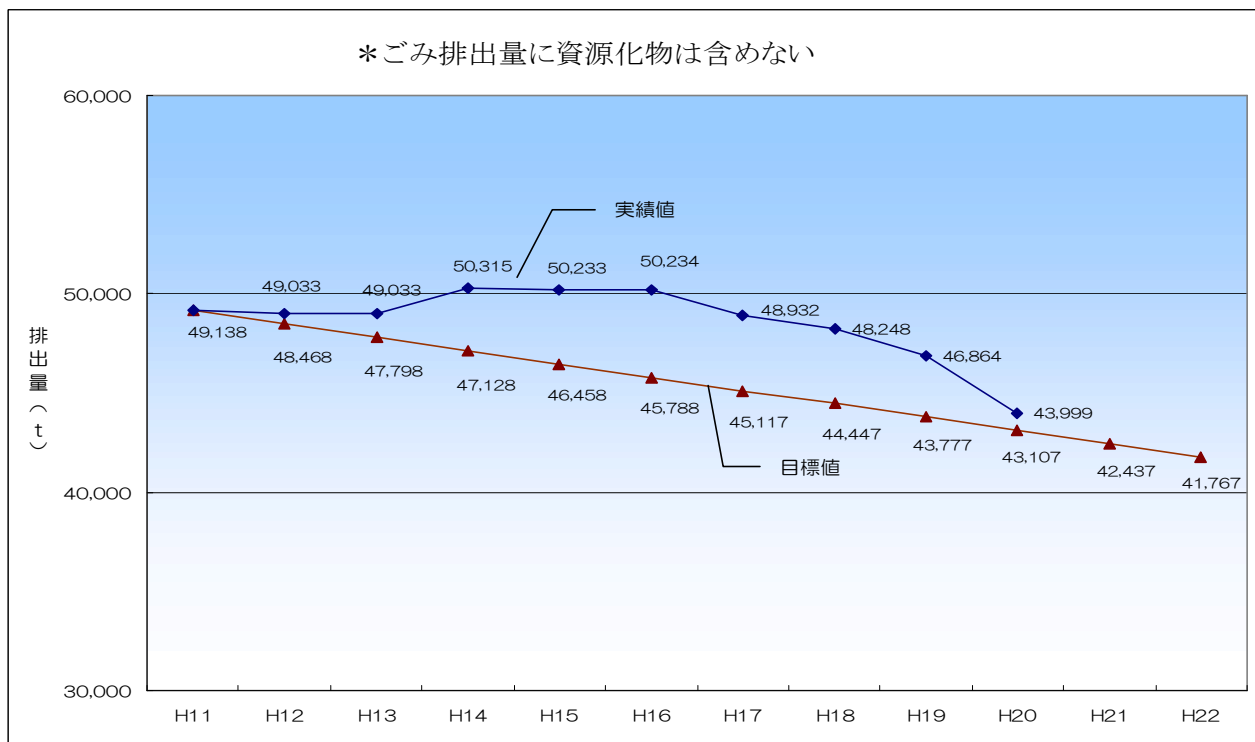
○平成18年度中核市排出量

市名	排出量(g)	有料化実施状況
宇都宮市	915	—
横須賀市	876	—
豊橋市	876	—
青森市	852	—
船橋市	851	—
郡山市	835	—
岐阜市	833	—
相模原市	830	—
富山市	830	—
岡山市	828	H21年2月
和歌山市	825	—
秋田市	822	—
いわき市	819	—
長崎市	798	—
岡崎市	791	—
福山市	791	—
旭川市	790	H19年8月
高知市	789	—
西宮市	768	—
川越市	768	—
姫路市	763	—
東大阪市	760	—
盛岡市	760	—
大分市	759	—
柏市	753	—
金沢市	753	—
豊田市	751	—
倉敷市	750	—
宮崎市	749	H14年6月
長野市	740	H8年11月
久留米市	729	H5年4月
鹿児島市	725	—
熊本市	723	H21年10月
函館市	721	H14年4月
高槻市	705	—
高松市	690	H16年10月
下関市	690	H15年6月
松山市	688	—
奈良市	577	—

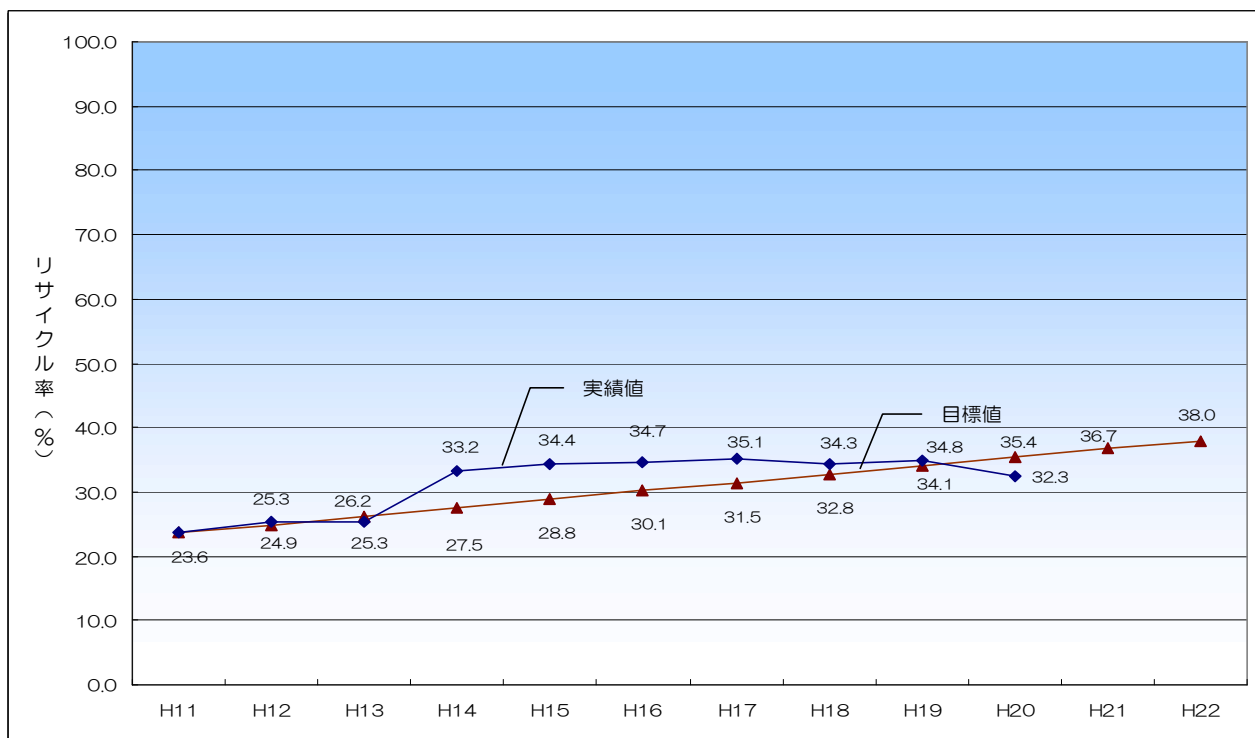
<環境省調査：資源化物を含む排出量>

※環境省による調査は、資源化物を含む排出量となっており、前ページの1人1日あたりの排出量(資源化物を除く)とは異なる。

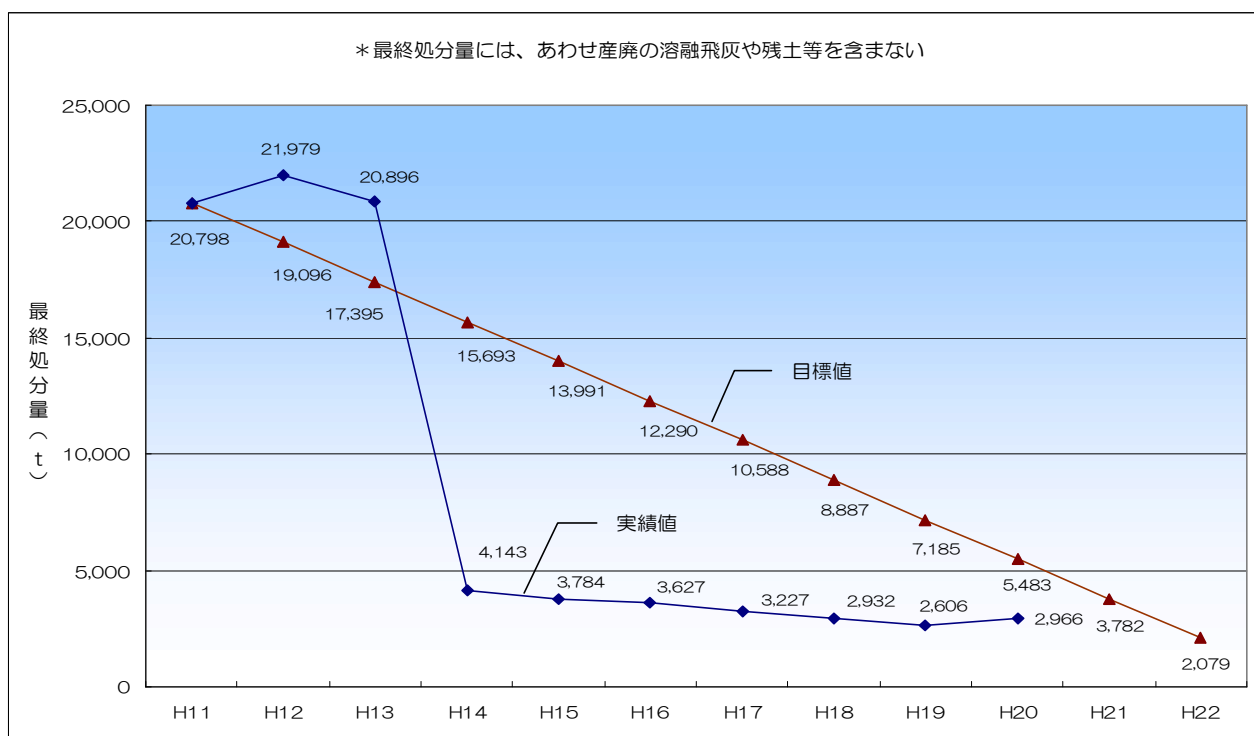
(2) 事業系ごみ排出量



(3) リサイクル率



(4) 最終処分量



3 ごみ処理の課題

(1) ごみの減量

本市のごみ排出量は、これまでの啓発活動により一定の減量効果が現れている。しかしながら、家庭系ごみについては、一般廃棄物処理基本計画で掲げる目標と乖離している状況にあり、資源循環型社会や低炭素社会の形成のためにも、さらなるごみの減量が重要な課題となっている。

(2) 負担の公平性

本市では家庭から排出されるごみについては、処理施設に自己搬入しているごみや戸別収集している粗大ごみを除き、無料で定期収集を行っている。

このように、すべて税金でごみ処理を行っている現状では、ごみを少なく出す人も多く出す人もその負担は同じであり、環境に配慮してごみを減らしている市民には不公平感があることから、ごみ排出量に応じた負担の公平性を確保するような仕組みが必要となっている。

(3) 多額の処理経費

本市のごみ収集処理費用は、施設の維持管理費等の増加により、年間約49億円となっている。

本市が導入している溶融炉は、溶融物をスラグ・メタルとして取り出しリサイクルしているほか、熱エネルギーを利用した発電も行っている。また、ダイオキシン類対策などの環境面においても優れた特性を有している。さらに最終処分量を極小化し、最終処分場の延命化に大きな寄与をしており、本市にとって必要不可欠なものとなっている。

今後は、ごみ処理経費をさらに抑える努力をするとともに、受益と負担の観点からも、どこまでを行政サービスとして市が負担すべきかについての検討が必要となっている。